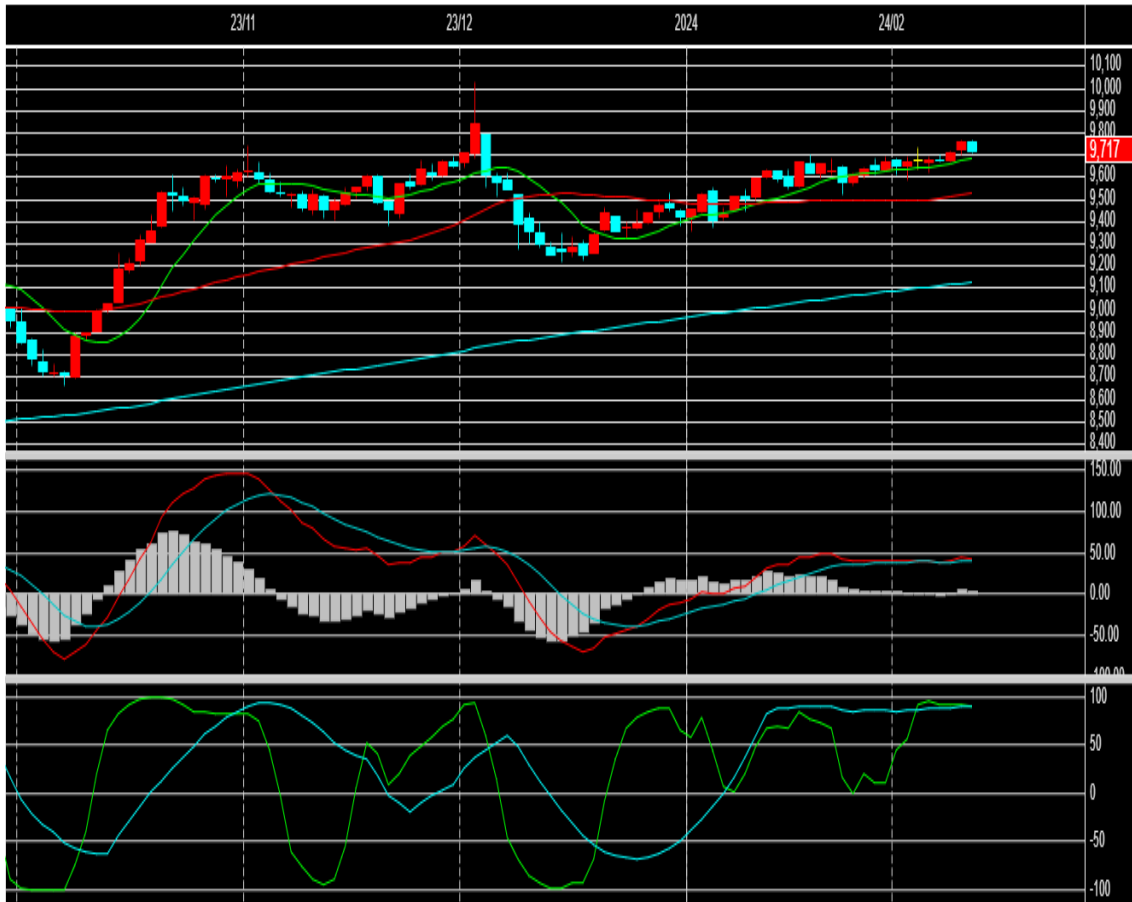


## <金標準、テクニカルではピークに近づく・・・>



(出所：オアシス)

先週末の雇用統計で非農業部門就業者数が 35.3 万人増と事前予想の 18 万人増を大きく上回り、パウエル FRB 議長は TV インタビューで「3 月以降まで利下げに踏み切るのを待つ公算が大きい」と発言し、ISM 非製造業景気指数も 53.4 と 4 ヶ月ぶりの高水準を示すなど、早期の利下げ観測が後退し、3 月の FOMC における利下げ確率は 30%を下回っている。特に NY 金のドル建て価格は 2083.2 ドルの高値から週末には 2034.3 ドルまで下値を模索するなど、金利を生まない金にとって金利高止まりからドル高で下値追いを続けている。しかし金標準先物は、内田日銀副総裁が講演で「マイナス金利を解除しても、どんどん利上げをしていくようなパスは考えにくく、緩和的な金融環境を維持する」と述べるなど、為替市場では昨年 11 月以来の 149.46 円まで円安が進み、週末には 9771 円まで高値を試している。ただ為替オンリーの値動きだけに、金標準先物も目先のピークに近く思え、9770 円以上は目先利益確定に押される水準と思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り上げ、**シグナル**も切り上げている。ただ **MACD** と **シグナル**の乖離がなく買われ過ぎを示唆している。RCI も**短期**と**長期**が重なり横ばいを続けており、買われ過ぎの域と思え利食い先行に思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 2 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2024 年 2 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>